

平成30年度アドバイザー派遣事業実施レポート

研究テーマ「思いを伝え合い 共によりよく生きる子どもの育成」

～算数科学習をとおして児童が主体的に深く学ぶ授業の創造をめざす～

東伯郡小学校算数科授業研究会

アドバイザー 明星大学 客員教授 細水 保宏

1 はじめに

本研究会は、湯梨浜町立羽合小学校と北栄町立北条小学校が連携し、「主体的・対話的で深い学び」となる算数科における授業研究を進めることをねらいとしている。新学習指導要領においても、「主体的・対話的で深い学び」をめざすことが大きく取り上げられており、児童が主体的に深く学ぶ算数科の学習の在り方を研究し、「深い学び」に導く授業づくりについて具体的なイメージを持ちたい。そして、主体的に考えを持ちながら他者と協力して問題解決を図ることのできる授業のあり方を授業研究会で追究することによって、教師の指導力を向上させ、児童の学力向上につなげたいと考え、本テーマを設定した。本テーマを進めていくにあたり、以前、筑波大学附属小学校で児童に指導されておられ、現在は明星大学客員教授である細水保宏先生に指導を受けていきたい。細水先生は、新学習指導要領が示される前から一貫して「なぜ?」「どうして?」と問うことで児童が学習課題を追究し、学び合う授業をされてきた。そのため、本研究会が求めている主体的に学ぶ子どもたちを育てるにあたり、適切な示唆を与えてくださると考えた。

2 実施期日

平成30年6月15日(金) 9:00～16:45 湯梨浜町立羽合小学校

- ①本研究会の概要説明 授業参観
- ②公開授業(4年2組 算数「垂直・平行と四角形」)
- ③細水先生による示範授業(5年2組 算数「式と計算」)
- ④授業研究会
- ⑤講義 「主体的・対話的で深い学びの算数科学習」

3 細水先生の指導内容と研修のまとめ

①授業研究会における細水先生の指導助言

児童が主体的に学ぶには自分の考えを持たせることが大切である。本時では、子どもたちは何をするのか(平行四辺形の作図をする)は理解していたが、その手段がわかっていないようだった。そこで、児童に「平行な線になればいい。」ということをももさせれば、それが本時の学習のヒントになると思われる。そのことが、児童が主体的になる支援の一つになる。

また、本時のねらいは、平行四辺形のかき方を読み取らせたいのか、自分で見つけださせたいのか、指導者の意図がはっきりしなかったため、児童が何をしたらいいのか戸惑っていた。指導者は、

本時で児童に何をまとめさせたいのかを意識して授業を組み立てることが必要である。その中で、まとめの言葉は、児童から出てくるように進めていくことに心がけてほしい。

②講義「主体的・対話的で深い学びの算数科学習」で指導を受けたこと

全国学力・学習状況調査では、毎年割合の問題の正答率が低い。割合は、児童にとってイメージしにくいものである。だから、図をかかせてイメージできるようにしたい。

また、児童に「〇〇しなさい。」と言わずに、できている子をほめること、3学期に算数科でめざす児童の姿を意識して1年間のゴールイメージをもち、だから今そのゴールイメージに近づけるために必要な学習活動を取り入れる等、算数での成長段階を意識した指導にあたる必要がある。

本時の学習は、同じ児童が発表していたが、たくさんの児童に意見を出させたい。そのためには、机間指導で児童の理解の状況を把握し、自分の考えに自信のない児童を意図的に指名したり、始めに自信のない児童を指名し、答えられなかったら、隣の児童に答えさせたりするのも一つの方法である。また、わかっていない児童への支援は、隣のわかっている児童に教えさせるなど、机間指導の目的をはっきりして行うべきである。

深い学びは、一言で言うと「つっこむ」ことである。深い学びにつながる話合いにするには、対話したくなる提示の仕方（提示したいものを動かす・隠す・時間を短くする）を工夫することや自分とは異なる意見に出合わせる必要がある。そして、自分で勉強できるようにするために帰納的、演繹的な考え方を指導すること、さらに、対話する対象として、教材との対話、先生、友達との対話、自分自身との対話がある。その中の自分自身との対話が「振り返り」である。振り返りも大切にしていきたい。

学力向上の特効薬は、児童を算数・数学好きにさせることである。そのためには教師自身が算数の本質に迫る活動そのものを楽しむ心、算数の美しさを楽しむ心、子どもとかかわりながら一緒に授業を創り上げていく心をもって授業に臨んでいくこと、授業力を鍛えること、そして、何より教師の人間性を豊かにしていくことが大切である。

4 今後に向けて

研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」は、それぞれが独立した学びではなく、相互に関連するものである。しかし、今回の研究会をとおして、本研究会は「主体的な学び」にこだわって研究をすすめたいと考えている。今一度、本会がめざす主体的な児童の姿を洗い出し、共通理解して具体的な指導のあり方について考えていきたい。

5 おわりに

示範授業では、子どもを意欲的にさせる導入の方法や意欲を維持させる指導方法を学ばせていただいた。このことについては、講義で詳しく解説され、指導の意図や理由について私たち参観者は実感と共感をもって学ぶことができた。また、その指導は特別な指導方法ではなく、私たちにもすぐ取り入れられるものであった。今回の研修は、今後の実践意欲を高める、満足感の高い研修になった。